東洋ビューティ佐賀工場 きょう竣工式

〝見せる工場〟 美と健康の新たな拠点に

化粧品・医薬部外品OEM大手の東洋ビューティが佐賀県神埼市に建設を進めてきた「佐賀工場」が完成、22日に現地で竣工式が開かれる。栃木県の宇都宮第一・第二工場と三重県の上野工場に続く4番目の拠点となる。3工場と同様の生産設備に加え高粘度ゲルやクリームを製造する設備も新たに導入した。フル稼働時には年間約5万トンの生産が可能となり、生産量は現在の2倍、約10万トンまで拡大する。高品質な日本製化粧品の需要が世界的に高まる中、佐賀工場の稼働を機に一層の「商品力」向上を図っていく。また「見せる工場」として一般消費者が化粧品を作る工程を見学できる専用通路や化粧品づくり体験ルーム、東洋ビューティの歴史がわかるミュージアムコーナーが設けられるなど、地域に根ざした工場づくりを実現した。設計施工を担当した藤木工務店は、人々の美と健康、地域社会に貢献するものづくりの新拠点を、匠の技で造り上げた。

設計施工＝藤木工務店

正面エントランスにはモニュメントも置かれている

食堂空間（1F）

吹き抜け

休憩室（2F）

東洋ビューティ株式会社
取締役社長
増井 勝信

将来に向けた化粧品づくりの基幹工場

東洋ビューティ株式会社は、大阪市東成区で1941年創業の化粧品・医薬部外品OEM／ODM会社で、国内外のお客さまのご要望に応じ、企画・開発から生産まで一貫した体制で製品を提供させていただいております。現在、国内には栃木県に宇都宮第一工場・第二工場、そして三重県に上野工場と東西2拠点3工場体制で製品を供給させていただいております。

この度、私どもが新工場を佐賀県に建設しようと考えましたのは、大きくは次の3つの理由によるものです。

1つ目は、国策でもあります観光立国を目指すという方針のもと、近年の訪日外国人の増加に伴い、メイド・イン・ジャパンとしての化粧品品質が認知され、日本製化粧品のブランド化が定着し、インバウンドやアウトバウンド（越境ECを含む輸出）が増加し、特にアジア地域においての需要が増して、既存3工場ではフル生産の状況が続いております。今後もこの需要は、堅調に推移するものと予想されています。

2つ目は、弊社は2011年の東日本大震災で宇都宮工場が被災しまして、一時期2工場の操業を停止せざるを得ない苦しい状況の経験があり、お取引先さまにご迷惑をお掛けしたことがありました。従いまして新工場を建設する場合は、BCPの観点から西日本方面を考慮しておりました。

3つ目は、佐賀県が県を挙げてコスメティックバレー構想を推進されていることです。この中で特に需要増やBCPへの対応が関繋の課題になっているところです。

ことし3月に竣工いたしました佐賀工場は、面積約4万平方㍍の敷地内に弊社では最大規模の地上4階建て延べ床面積約3万2000平方㍍の工場棟を設けました。工場の生産規模としましては既存3工場を合わせた生産能力に匹敵し、同様な生産設備や新たに高粘度ゲルやクリームを製造する設備も導入いたしました。この工場がフル稼働しますと約5万トンの生産が可能となり、弊社全体として現状の約2倍（約10万トン）の生産能力を有します。この基幹工場ができることで、さらに業界並びにお客さまからのご要望に沿える生産体制ができてくるのではないかと思っております。

この工場は、弊社の最新鋭の見せる工場として自動化、機械化、省人化設備を最大限導入し、生産効率や品質並びに衛生環境の向上を図るように設計いたしました。具体的には、従業員と一般の人との動線が交差しないように、また一次更衣室、二次更衣室を設け、区画がより段階的に衛生的な環境が保たれるように配慮しました。そして、弊社はBtoBの業態ですが、一般消費者の方にも化粧品を作る工程を見学できる専用の見学通路、化粧品づくりの体験ルームや弊社の歴史などを紹介するミュージアムも設け、皆さまとのコミュニケーションも深められるようにしました。

食堂も、地産地消をコンセプトとして地元の食材をベースに調理して提供する形で、地域に根付いた工場として貢献できればと考えております。初年度は既存工場より移動の従業員もおりますが、基本的には現地の人を採用して約100人程度で運営し、その後、稼働率の増加に伴い採用を増やし、雇用の面でも地域に貢献していければと考えております。

佐賀工場の建設に当たりましては、弊社の業態をよくご理解しておられ、いままでの既存3工場も建設・改築していただき、大きな信頼を寄せております株式会社藤木工務店さまにお願いすることになりました。また、佐賀工場が竣工に至るまでにおお力添えをいただきました多くの方々に、改めて心から厚く御礼を申し上げます。

これからも化粧品事業を通じて、求められる商品をお客さまに提供し、人々の美と健康、並びに地域社会に貢献して参りたいと考えております。

地域に開かれた全面ガラス張りの外観

設計メモ

国内最大の製造拠点となる佐賀工場は、クリーンで機能的な化粧品工場であることはもとより、国内外のOEM顧客に対して見せる工場であることを求められた。その製造環境と設備や工程を目で見て納得いただくための施設である。

メインとなる、南北の入出荷のストックヤードを結ぶバルク・充填・包装のラインは、階高9㍍の2フロア構成である。それぞれのフロアには中間階に見学通路が設けられ、そこから製造やラインの工程を視察することが可能となっている。振動対策で補強された床荷重に加えて、この中間層に大きな吹き抜けをもつ特徴的な4層構造のため、メイン床梁は1,400㎡のBH、柱は700㎡角のBCPを採用、昨今の納期長期化により設計着手の2.5カ月後に鉄骨ロール発注を行っている。

この見学通路の起点には、来訪者へのガイダンススペースと企業ミュージアムを設置し、製品実現の過程をより深く理解することができる場としている。これらのスペースとエントランス、また働く人たちが快適に過ごすために用意されたさまざまな場所（カフェテリア、休憩室、ボルダリングが楽しめるレクリエーションスペース等）は、国道沿いの全面ガラス張りのブロックに集約している。極めて平坦な筑紫平野の田園風景の中、内外のアクティビティーをガラスカーテンウォールを通して見せることで、閉鎖的なイメージになりがちな化粧品工場が、地域からも働く人からも見通しの良い、開かれた工場となることを目指している。

株式会社藤木工務店執行役員
設計統括部長兼大阪本店
設計部長　阪口俊夫

ラップ工程、ラス型枠を採用し工期短縮

施工メモ

佐賀工場は周辺に用水路や水田が広がる造成地に建設された。軟弱な地盤を予測した吉澤雅祐所長は、「大型重機や杭打ち機の転倒事故対策と掘削時の湧水による法面崩壊が発生しないよう準備工事期間に地盤改良を行った。同時に、場外に搬出する土砂の鋤取り・搬出を行い、掘削工事期間中の残土搬出時間を短縮させた」と振り返る。

施工に当たっては、建物の形状が南北に細長いため、北側から南側に向けて一方通行の施工計画を立て、ラップ工程で工期短縮を図った。

また、基礎工事では、ラス型枠を採用することで型枠解体を無くし、工期短縮を図った。

外壁工事は、金属パネルの長さが9㍍あり、外部足場の壁つなぎ控えもあまり取れないため、高所作業車と揚重機でつり込み、安全性と施工性を向上させた。

環境対策にも細心の注意を払った。排水処理は、作業所内に設置した専用の浄化槽で処理し、騒音・振動は作業日ごとに測定した。また、自ら朝・昼のごみ拾いを兼ねて敷地周辺を見回り、異常の有無を確認した。

竣工を迎え、吉澤所長は「これまでに経験したことのない大規模工事を、厳しい工期の中で完成させることができました。関係者の皆さまのご指導、ご支援、ご協力に感謝します」と謝意を示した。

工事概要

▷建物名称＝東洋ビューティ株式会社佐賀工場
▷建設地＝佐賀県神埼市千代田町柳島694番1
▷建築主＝東洋ビューティ株式会社
▷設計監修＝株式会社シーエムプラス
▷設計施工＝株式会社藤木工務店
▷構造・規模＝S造4階建て延べ3万2,448.47平方㍍
▷建築面積＝1万6,920.22平方㍍
▷工期＝2018年3月20日―19年3月15日